

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年 6月 30日

事業所名 放課後等デイサービスセンターあだち【キッズのおうち】

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	児童の椅子の間隔を気を付けゆとりある空間利用をしている。	
	2 職員の配置数は適切である	5	0		職員の雑用が多く(来客・電話の応対、トイレに連れて行く、オムツを替えに行くなど)場を離れることもあるので時間配分を工夫し、見守りの職員が一人にならないよう工夫する。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	マットの色を変えたり仕切りドアをつけたり子供に視覚的にわかりやすい掲示をしている。玩具棚は一目で何がはいっているかわかるように写真で示している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	子供が帰った後毎日掃除を徹底して清潔を保っている。空調機を使い適切な温度にしている。マットスペースに肌触りのよいタオルケットを置いて横になれるようにしている。食事スペース、遊びスペースとフロアを使い分け安全面に配慮している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	0	日々、各職員が気づいた点を話し合っている。	全体会議での振り返りは行われているがパート職員が参加できていない(議事録で確認)ので、開催時間を考えていきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	送迎時に会話をし保護者との連携を密にしている。。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		ガイドラインに基づき事業所の自己評価、保護者の評価の結果を取りまとめホームページにて年1回公表する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	3		相談員の方が来所されたときに意見を聞くようにする。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	勉強会を開催している。	職員の配置に余裕が出てきたら外部研修に積極的に参加したい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	子供一人一人をよく観察し保護者の意向も聞いた上で作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	個別の具体的な支援目標を決め、それを実行にうつす努力をしている。	アセスメントツールを活用し必要に応じて見直しを行い、個々に合わせた適切な支援を行っていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	常に課題を職員全員で確認している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	全体会議で皆で話し合って決定している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	担当職員を振り分け状況に応じて新しいプログラムを取り入れ活動している。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	曜日ごとに午後からの活動内容を決め個別活動・集団活動をそれぞれの担当が子供の成長をみながら計画している。		

17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	毎日できてはいるが役割表を作成し各自確認するようにした。	送迎業務があり支援開始前に全員そろっての打ち合わせが難しい。送迎前に打ち合わせができるような出勤体制を考えていきたい。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	1日ごとに反省と連絡事項を確認している。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	必ず記録を取るようになっている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	6か月に一度、計画表を見直している。計画書の項目にチェックを入れるなどして確認している。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	児童発達支援管理責任者及び担当者が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	県の関係機関と連携を図っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	非該当	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	非該当	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	今後並行通園等行っている保育所・園との連携を図ってきたい。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	0	現在移行支援の子どもはいません。	移行支援シートの作成を行う予定。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	公開療育には積極的に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3		現在は交流はありませんが交流する機会を検討中。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	2		今後参加できるようにしていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	連絡帳の記入、送迎時の会話、個別面談等様々な方法をとって保護者との共通理解に努めている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	2		支援は行っていません	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	利用契約時に十分な時間をとって説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	6か月ごとに計画書を作成し、その都度説明をしたうえで捺印をもらっている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0		送迎時に子供の様子を伝えている。必要な時は面談をしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3		職員数、時間的に今まではやってこれなかったが今後要望があれば開催できるよう努力したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	苦情担当者、第三者委員を設置している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	2		現在は発行できていない。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	契約時に取り扱いについては説明を行い理解を得ている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	イラストやカードを使い視覚的に工夫している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	行事は行っていないが散歩のときに挨拶を心掛け近所の方と交流している。	今後の課題である。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0		保護者に周知していないので連絡帳を通して周知する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	年2回定期的に避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	保護者より事前に聞き取りをしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	アレルギーについては皆が見えるところに張り紙をすることになっている。	現在は該当者なし
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	全体会議で事例の発表をし事故防止に努めている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	内部での研修会で読み合わせを行い意識を高めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	1	現在対象となる子供はいない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。